

なるものあらん。

我會は死力を盡して、此根本問題を争ひ曲直を明かにして必勝を期せんと欲す。

今や労働者の生命は殘虐なる資本家の手に依つて斷たれんとす。

滿天下の労働者諸君來り援けよ而して労働者の権利を守れ。

大正九年七月十四日

友愛會紡織労働組合

五 友愛會の態度と策戦

友愛會は如何なる策戦を罷業の當初に抱持したるか、それは右の宣言に於て自ら明かなるべし。見よ、團結は労働者の生命なり、我が友愛會の存する所以亦之を措いてあるなし」と云ひ、「事一會社の事件に似たれど、問題は勞者働團結權のことにして、労働運動の根本にかゝる、其一般労働運動者に及ぼす影響蓋し大なるものあらん」とか友愛會は押上支部の持久力に不安なりき。而して紡績界の不況今日の如く、會社は押上工場六萬錘の操業中止に何等の痛痒を感せず、寧ろ損失を少くするを喜ぶべき現状にあり。茲に於てか罷業に依て會社に經濟的壓迫を與ふるの途なく持久戰の一日長からんか一日の苦を増すことを了知せり。友愛會は曩に日立に於て砂を嘗むるの苦を味へり。九年の歴史は勝敗の如何に不拘、罷工が支部を潰し會員を少くするの原則を知れり。而も押上支部の友愛會に於ける地位や前述の如きこと、幹部の懊惱や察するに難からず。さりとて友愛會の名は捨つべからず。即ち事

茲に及んで取るべき途は罷業が團結權にかゝる根本問題なるを高潮し、天下に訴ふると共に、富士紡社長和田氏が東都實業界に於て、之を縦斷するの地位を逆に取て、結合切り崩しの名を冠し、氏を苦しむに氏の名譽と體面とを壓迫するの外なしとなせり。是やがて、戰鬥力薄弱なる紡織組合をして對世間的政争としても戦はざるべからざるを感せしめた。所以なりしなり。而して押上工場の罷業を知るや都下各新聞はその罷業理由の點より興味ある問題として重要に取扱ひたり。一方友愛會本部は罷業團より和田社長宛の交渉を託されたるも、前記策戦の下に急ぎて交渉するの必要を感せず、寧ろヒタ押しに押し進んで、最後の二瞬間に會社と妥協せんとするの方針を持し、當日午後三時半鈴木會長が富士紡常務持田巽氏に對する電話も組合切崩しに對する労働組合として決心を通告するに止めたり。直接交渉を急がざりし一因は紡織労働組合が會員二千五百を有し、組合同盟會の一員たるまでに發達したるため、其幹部の訓練上、一も二も本部に依頼するの風を矯正せんとすることにも存したるが又曾て富士紡小名木川工場に於ける罷工に際し鈴木會長對持田常務の交渉に於て常務の採りし術策が慧敏なりしを痛感し居りしことも其一因なるが如し。

六 罷業者の心理

十五日罷業團は午前七時太平町大平亭に集合し演說會を開きて只管結束に努む。其日の罷工者心理